

特集

失敗できない若手のための 呼吸器診療実践ガイド

現在、われわれは COVID-19 という未曾有の疾患に向き合っているが、そのなかで呼吸器診療の重要性がますます脚光を浴びてくる。今回、若手医師のための実践的なガイドのコンセプトで特集を企画した。

最初に病歴聴取のポイントを、キーワードを駆使した表の例示と診断プロセスの図で理解していただく。

血液検査のデータの臨床的解釈と経時的変化の把握、呼吸機能検査での値の変化、フローボリューム曲線のパターンから解剖学的な異常の予測が可能になる。

気管支鏡に関してはデバイスも進化し、クライオ生検も導入されて様々な疾患を内科的に診断可能になったことが実感できる。

呼吸器感染症の定型肺炎と非定型肺炎では、重要な情報の収集法と鑑別診断、具体的な治療を画像も交えて解説している。誤嚥性肺炎については単に診断方法のみならず、嚥下機能の評価と具体的な摂食プロトコルも提示し、従来の解説と異なる切り口で記載され病棟での実践に即、活かせる内容になっている。

抗酸菌では結核と非結核性抗酸菌症を対比し臨床所見、診断ツール、胸部画像での特徴を一目で理解できるように解説した。

胸水については肉眼所見での鑑別、最近の論文からの生化学データの利用の極意を示している。

症状では喘鳴と喀血を取り上げ、緊急度の見極め、鑑別診断を多数挙げていかに絞り込むかが記述され、喀血については具体的な処置・治療に関しても言及した。

COPD については禁煙，疑うポイント，治療管理について体系的に触れている。

気管支拡張症では他誌では触れられていない診断基準，考えるべき背景，具体的な治療について詳しく解説している。

間質性肺炎は初学者が苦手とする領域だが，特発性と原因がある場合とに分けて，特発性については診断過程，二次性については想起すべき問診項目と気をつけるべき臨床所見の表が大変有用である。

気胸については続発性の主要原因疾患の表，診療の流れ，具体的な治療についてアルゴリズムがしっかりまとめられている。

肺塞栓については代表的な予測スコア，重要所見の感度・特異度，エコー所見などについて見やすい表と図で構成されている。

肺がんは多彩な自覚症状・見落としやすい画像の提示・分子診断における遺伝子変異の抽出の意義などに関して最新のデータを盛り込んで解説している。

ARDS はベルリン基準，重要な鑑別診断と評価方法，呼吸管理では肺保護戦略のみならず，最近のトピックの駆動圧，腹臥位，ECMO など集中治療の核になる部分に触れて安全な管理につながる解説になっている。

呼吸リハビリテーションに関してはセルフマネジメントを含めた包括的アプローチの重要性，リハビリ処方が必要項目，ゴール設定などを患者が読んで理解可能な文章でまとめられている。

最終章では終末期医療の意義と目標，在宅医療の導入，個々の患者にどう向き合ったらよいかなどの疑問に答えられる内容になっている。以上のように，本特集を読むことで読者が自信を持って呼吸器診療の実践が可能となることを確信する。

沖縄県立中部病院 呼吸器内科 喜舎場朝雄